

令和4年度 第3回 学校運営協議会

浜松市立中瀬小学校

1 日時 令和5年2月17日(金) 10:00~12:00

2 会場 浜松市立中瀬小学校 会議室

3 内容

進行(平野)

(1) 会長挨拶

(2) 校長挨拶

(3) 議長の選出

(4) 前回会議録確認

(CSディレクター)

(5) 熟議

進行(議長)

①学校評価の結果について

(平野)

・子供たちの挨拶改善に向けて

②学校運営協議会の1年間の取組について【自己評価】

(各委員)

③次年度の学校経営方針・教育活動【予定】について

(校長・平野)

(6) 連絡

令和5年度 第1回学校運営協議会 令和5年 5月12日(金) 予定

第2回学校運営協議会 令和5年12月13日(水) 予定

第3回学校運営協議会 令和6年 2月16日(金) 予定

令和4年度

第3回学校運営協議会



「ゴール目指して、がんばるぞ！」 なかぜっ子走（持久走大会）より

令和5年2月17日(金)

浜松市立中瀬小学校

第3回 学校運営協議会出席者名簿

学校運営協議会委員

会 長	山本 忠雄
委 員	山下 勝康
委 員	村上 雅代
委 員	舟橋 弘子
委 員 学校支援 コーディネーター	田中 弥生
委 員	鈴木 英之
委 員	鈴木 康弘

オブザーバー

中瀬協働センター	小杉 幸次
----------	-------

学 校

校 長	宮崎 秀樹
教 頭	原 欣嗣
C S担当教職員	平野 将太郎
C Sディレクター	富永 幸代

浜松市教育委員会

教育総務課	堀田 洋一
-------	-------

「令和4年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

浜松市立中瀬小学校

6年生の子供たちが4月に行った「全国学力・学習状況調査」の結果（浜松市まで）が、9月末に公表されました。本校の結果についてもまとめましたので、概要をお知らせします。

1 全体の傾向

・国語は、県の平均と同程度、全国の平均をやや上回る正答率でした。

小学校6年生 平均正答率 (%)			
	国語	算数	理科
浜松市	67	64	62
静岡県	66	63	62
全国	65.6	63.2	63.3
本校	66	65	65

2 国語科について

○ よくできた点

話し合いの様子を読み発言の意図を読み取ったり、話の中心を捉えたりする問題や、本文の言葉や文を取り上げて考えをまとめる問題がよくできていました。

今年度、伝え合う活動に重点を置いて授業を進めてきました。話し合いを進めるためにどのような言葉が有効であるか、発言者の意図がどのようなものなのかなど、考える力が身に付いてきていることが伺えます。また、本文の言葉を用いて、自分の考えを整理し直す力も伸びていることが伺えました。

● もう少し力を高めたい点

物語文の登場人物の行動や気持ちについて叙述を基に捉える問題や条件に合わせて自分の考えを書く問題に課題が見られました。

一方、物語文の中で、様子や気持ちを表す言葉を見付けたり、人物像や物語の全体像を想像したりする力については課題が見つかりました。また、意図を読み取れても、それを自分の考えとして表現する力、書く力をさらに伸ばしていきたいです。

☆今後の授業に向けて

- ・自分の考えを書いて表すために、必要な文型を指導していくとともに、書く活動の機会を確保していきます。
- ・読書を推奨するとともに、話し合う活動の経験を増やしていくことで、様々な言葉の使い方に触れられるようにしていきます。
- ・漢字を日常的に使用するように、継続して指導、声掛けをしていきます。

3 算数科について

○ よくできた点

分類整理されたデータから目的に応じて必要な情報を読み取る問題がよくできていました。また、位の大きい場合の乗法、2位数同士の公倍数を求めるといった、基本的な計算や数の処理においては、全体的に全国、県の平均を上回っていました。

日常生活の問題を解決するために、データの特徴や傾向を読み取ることができています。日常生活や各教科の学習において、様々な資料に触れることで、目的に応じたデータの活用法が身に付いてきていると思われます。

※裏面もご覧ください

● もう少し力を高めたい点

割合の意味や性質に関する理解、目的に応じて複数の計算方法を組み合わせる必要がある問題に課題が見られました。

具体的な場面では、割合を用いて知りたい数量を求めることができる程度できていました。一方で、例えばジュースの量が半分になってもその濃度は変わらないといった生活経験から想起できる割合の性質についての問題では正答率が低くなっていました。また、加法と乗法を組み合わせる必要がある問題では、計算の順序の間違いや無回答がやや多く見られました。

☆今後の授業に向けて

- ・問題文にある条件を正しく読み取り、それに則した解答を導き出せるようにしていきます。
- ・割合やがい数といった用語の意味や性質の理解を深めていけるよう、重要な用語は復習の機会を計画的に設定していきます。

4 理科について

○ よくできた点

知識を問う問題では概ね正答率が高くなっています。また、提示された情報を、複数の視点で分析、解釈する問題もよくできていました。

実験器具の名称や使い方、光の進み方の性質など、知識を問う問題では正答率が高く、知識の定着が進んでいることが伺えます。また、提示された実験結果から、問題に対するまとめにつながる情報を選択することもよくできていました。

● もう少し力を高めたい点

観察対象を複数の視点で分類する問題や、複数の観察記録をまとめて新しい考えに整理する問題に課題が見られました。また、実験の結果を指定された視点で分析、解釈し、まとめを自分の言葉で記述する問題では正答率が低くなっていました。

昆虫の観察記録を考察する問題では、観察した昆虫を複数の条件で分類した際に、どの分類に当てはまるのか判断する問題や分類に必要な条件を調べるための観察方法を選択する問題で正答率が低くなっています。缶に光を当てたときの中の水の温度の変化と、缶の色の関係を調べる実験結果について、まとめに必要な情報を適切に選択して記述する問題では、必要な情報が不足している間違いが多く見られました。特に数値で表された結果を言葉で記述する点で課題が残りました。

☆今後の授業に向けて

- ・類似した問題に取り組むようにし、身に付けた知識を活用する場面を増やしていきます。
- ・実験結果を正確に記録するだけでなく、考察を自分でまとめる時間を確保していくことで、思考力・表現力を育てていきます。

5 今後に向けて

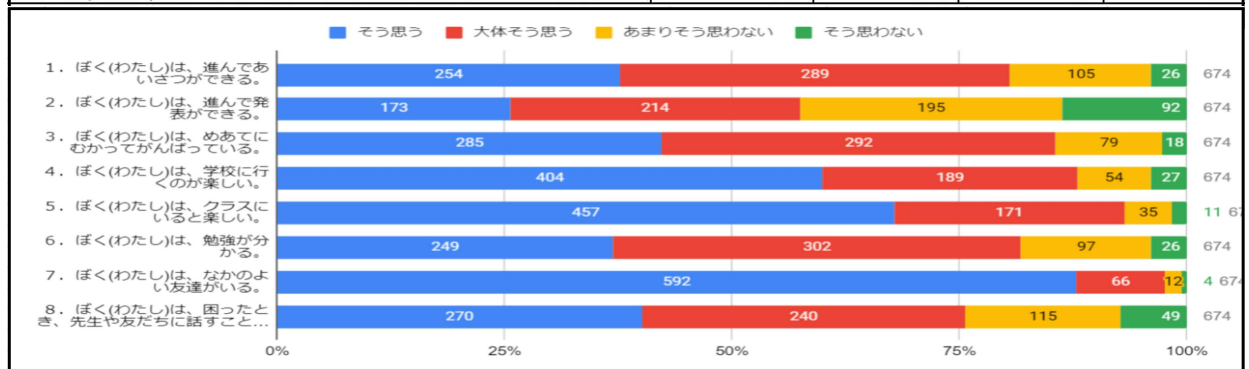
- ・子供たちが進んで「伝えたい」と思える授業を通して、子供たちの表現力を高めていくとともに、協働的な学びの経験を積み重ねていきます。
- ・高学年で実施している教科担任制のメリットを生かし、教員の教科指導の専門性を高め、より「分かる」「楽しい」授業実践に努めていきたいと思えます。

令和4年度 浜松市立中瀬小学校 学校評価報告書

評価結果及び考察

1【学校評価アンケート（児童対象）】

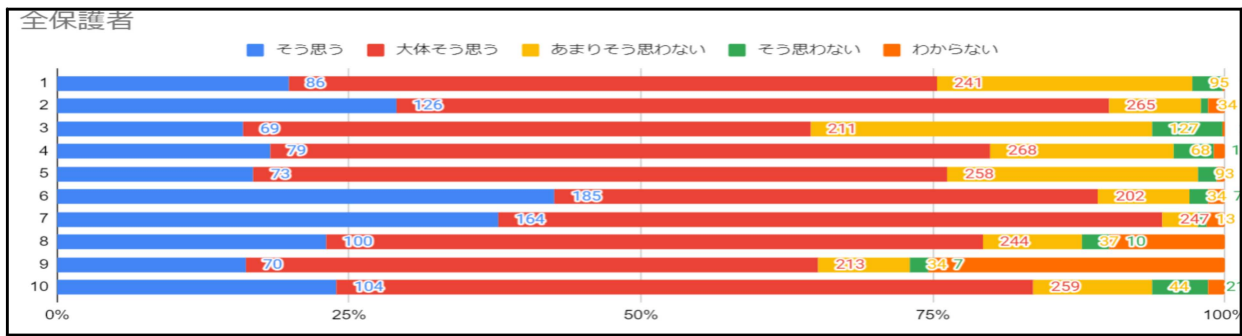
質問	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
1. ぼく(わたし)は、進んであいさつができる。	254	289	105	26
2. ぼく(わたし)は、進んで発表ができる。	173	214	195	92
3. ぼく(わたし)は、めあてにむかってがんばっている。	285	292	79	18
4. ぼく(わたし)は、学校に行くのが楽しい。	404	189	54	27
5. ぼく(わたし)は、クラスにいると楽しい。	457	171	35	11
6. ぼく(わたし)は、勉強が分かる。	249	302	97	26
7. ぼく(わたし)は、なかのよい友達がいる。	592	66	12	4
8. ぼく(わたし)は、困ったとき、先生や友だちに話すことができる。	270	240	115	49



- ・「学校に行くのが楽しい」の結果から、子供たちの学校生活の充実が感じられる。学級担任を中心とした学級づくりの成果だと考える。今後も児童理解を深めるため、子供たちとの関わりを深めていきたい。
- ・「勉強が分かる」では、多くの子供たちが「分かる」という回答をしている。「できた」「分かった」と実感できる授業を目指した教職員の日々の授業研究の成果だと考える。また、今年度から導入した「高学年における教科担任制」による、より専門的な授業によって子供たちの学びへの意欲が高められたことも一因として考えられる。
- ・「進んであいさつができる」では、子供たちの評価と保護者・教職員の評価の結果に相違が見られる。子供たちには、どのような「あいさつ」が望ましいのか具体的な姿を提示しながら指導を進めていきたい。また、校内だけでなく校外でもあいさつができる子を育てていけるよう、家庭・地域と連携していきたい。

2【学校評価アンケート（保護者対象）】

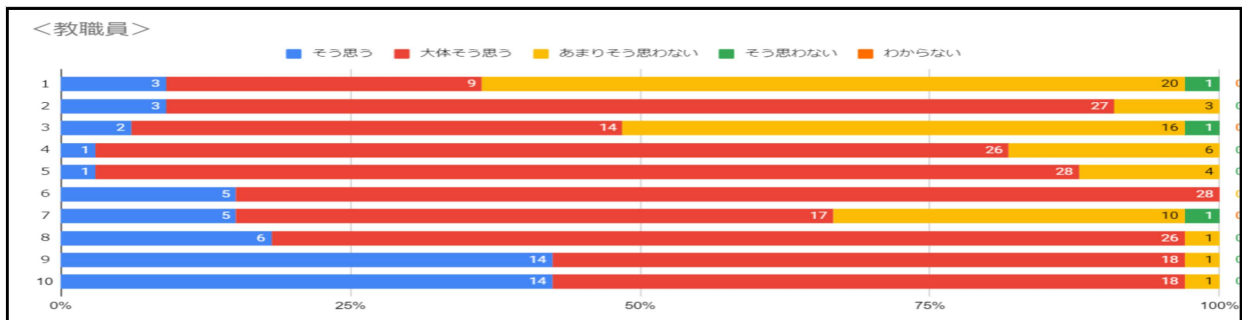
学校評価アンケート（保護者）	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
1. お子さんは、気持ちのよい挨拶ができる。	86	241	95	11	1
2. お子さんは、優しい気持ちと言葉遣いで友達に接することができる。	126	265	34	3	6
3. お子さんは、進んで自分の考えを伝えることができる。	69	211	127	26	1
4. お子さんは、教科学習の基礎基本が身に付いている。	79	268	68	15	4
5. お子さんは、自分がたてた目標に向かって努力することができる。	73	258	93	7	3
6. お子さんは、学校生活が楽しいと感じている。	185	202	34	7	6
7. お子さんは、交通安全を意識した登下校ができている。	164	247	13	3	7
8. 中瀬小学校は、教師が子供に寄り添い、子供たちが相談しやすい環境ができている。	100	244	37	10	43
9. 中瀬小学校は、いじめ防止に向けて組織で対応し、子供たちの心のトラブル解決に向けて早急に取り組むことができる。	70	213	34	7	110
10. 中瀬小学校は、各種たより、お知らせ文書、ブログやメールなどの情報発信を適切な時期に適切な方法で行っている。	104	259	44	21	6



- ・「気持ちのよい挨拶ができる」…保護者・地域からも子供たちの挨拶に課題があると感じられている。学校内だけでなく、学校外・地域でも挨拶ができるよう指導を継続していきたい。
- ・「自分がたてた目標に向かって努力することができる」…なかぜっ子走（持久走）に向けて子供たちがひとりひとりが目標に向かって努力する姿が見られた。こうした姿が、学習等でも見られるよう課題解決のため継続的に取り組んでいけるような課題を設定する等、指導の改善を図ってきたい。

3【学校評価アンケート（教職員対象）】

＜質問＞	教職員	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
なかぜっ子は、気持ちのよい挨拶ができる。		3	9	20	1	0
なかぜっ子は、優しい気持ちと言葉遣いで友達と接することができる。		3	27	3	0	0
なかぜっ子は、進んで自分の考えを伝えることができる。		2	14	16	1	0
なかぜっ子は、教科学習の基礎基本が身に付いている。		1	26	6	0	0
なかぜっ子は、自分がたてた目標に向かって努力することができる。		1	28	4	0	0
なかぜっ子は、学校生活が楽しいと感じている。		5	28	0	0	0
なかぜっ子は、交通安全を意識した登下校ができています。		5	17	10	1	0
中瀬小学校は、教師が子供に寄り添い、子供たちが相談しやすい環境ができています。		6	26	1	0	0
中瀬小学校は、いじめ防止に向けて組織で対応し、子供たちのトラブル解決に向けて早急に取り組むことができます。		14	18	1	0	0
中瀬小学校は、各種たより、お知らせ文書、ブログやメールなどの情報発信を適切な時期に適切な方法で行っている。		14	18	1	0	0



- ・学校教育目標「友達を大切にし、広い心で助け合う」を全教職員が意識し、教育活動に取り組んできたことが表れている。
- ・「気持ちのよい挨拶ができる」…「挨拶」は中瀬小学校の子供たちの課題としてとらえている。教育課程編成会議の中でも、子供たちに求める「望ましい挨拶の姿」について話し合い、具現化に向けて「委員会によるあいさつ運動」や「あいさつカードによる奨励」等、対策に取り組んでいる。
- ・「進んで自分の考えを伝えることができる」…長いコロナ禍で話し合い活動やグループ学習が制限され、友達に自分の考えを上手に伝えられない、友達と関われないという子供たちが増えている。制限された環境の中でもICT機器の活用等、自分の考えをまとめ、表現する場を工夫していきたい。

令和4年度 学校運営協議会自己評価

〈評価項目1〉 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- ・ 学校運営の基本方針について説明を受け資料を読むことによって、浜松としての教育目標と中瀬小学校としての環境を理解した上でのとても良い方針であることが理解できた。ただ、私自身としては、浜松市PTA連絡協議会の理事としての学ぶ機会が多かったのでより理解ができたが、これらの方針が保護者、地域の方々により多く説明、表明し共有していくことがもっとよくして行くには必要だと思った。
- ・ 人が集まるリアルの活動（CS含む）の大切さを感じた。
- ・ 今年度の中瀬小グランドデザインについて、校長先生より具体的に説明をしていただき、内容について委員それぞれから質問や意見も出て熟議ができたと思う。
- ・ 初年度ということもありコロナ禍の中でどれだけの活動（運営）ができるか、とのことも含め、まずは方針について委員全体で理解と共有を会議で深めていけたが時間が足りない部分もあった。
- ・ 校長先生からの丁寧な説明を受け、委員それぞれ自分の思うところを忌憚なく出し合うことができた。いろいろな立場の委員の意見を聞いたことは、自分の考えを深めたり広げたりするのにも有意義だった。しかし、学校運営の基本方針となれば、学校側が中心となるのは当然であり、委員は意見を述べるというより、質問をすることで、その理解を深めるという形になると思う。それが熟議といえるかは疑問である。
- ・ 学校側から今年度の「学校経営方針」について丁寧な説明がなされたが、正直なところ自分の中に落とし込むことが十分ではない…と感じている。教育目標・経営目標・重点目標等々、しっかりと理解をしたいと思っはいるが、やはり一度には無理がある。今後の取り組みの中で、徐々に理解を深め、地域の応援団としての観点からの意見などが発信していけるよう努めたい。
- ・ 学校運営の支援者という立場からすると、基本方針を常に念頭に置くことはできなく、各論というか具体論で協議をしがちではあるが、時には総論（基本方針）に照らした熟議も大切なことであると思う。
- ・ 3回目の協議会で、初めて色々な意見が出たように思う。校長の後押しをする当事者としての自覚を持つには、正直難しい。中瀬小の特色とは何か。それを生かすためには、どのような取り組みが必要かなど、私自身の課題として受け止めて、初めて、当事者意識が芽生えるように思う。まだまだ第三者

的な立場のように思える。よく考えられた5年度の教育基本構想をまず理解することから始めたい。

〈評価項目2〉 学校運営に資する活動について熟議を進めることができたか。

- ・ CSスタートの年で、さまざまな学校活動や教育にどのようにかかわっていくのか、なんとなくコーディネーターさんからの説明と共に見えてきたように思った。
- ・ アフターコロナでの学校の取組み・努力を感じ取ることもできた。
- ・ 活動については、まずは学校側からの今までの報告を受けて、コロナ禍でも進めていけるにはどうすればいいかを話し合った。その上でコーディネーターとして、学校からのニーズを探り、今後の計画と地域・保護者がそこどう関わっていくか、または、つなげていけるかを委員に意見を求め熟議ができた。
- ・ 12月の会合で、それぞれの学年から、ボランティアや講師が必要と思われる活動が提示されたことで、子供たちの学習活動の課題・ニーズがよく分かった。これを基に、今後、熟議を進めていけるのではないかと思った。
- ・ コロナ感染拡大で、学校の活動が縮小され、人の出入りも制限される中、活動を絞って提示することは現実的であるし、有効であると思った。
- ・ 今年度からの開始ということもあり、“学校運営協議会”とは何か…というところからの理解であり、まずはどのようなニーズがあるのかなどの準備段階であった。また、確認したい内容等の意見を出し合うなど、活発な話し合いもなされた。
- ・ 開設初年度から、さまざまなボランティア活動が地道に展開され、今後につながっていく確かな手ごたえを感じた。協議会委員の積極的な連携と、学校側との協調が図られていることだと思う。
- ・ 評価の視点として8個ある。これらの評価項目の視点は、委員としての私が持っていなければならない。そのことを今回のアンケートを書くに当たって気付いたのが率直な感想である。来年度の協議で、これらの視点で話し合いをしていけば熟議につながるかもしれないが、もとより熟議をすることが目的ではないので難しい。

〈評価項目3〉 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

- ・ 子供たちの充実した環境の実現には、現場の教職員が満足できていることが

大切なので、教員満足向上の支援も検討できないだろうか。

- ・ 委員に教育関係者以外の基本方針に応じた地域・企業などの人や、保護者・3年間協力してもらえらる人を含められる最良の委員構成を検討してもらいたい。(選出方法含む)
- ・ CS初年度であり運営委員会も発足したばかりということで、まずは学校教育に何が必要か、活動内容にはどんな意味があるのかを知り、実際に運営委員としてどう関わっていくのかを学び直しさせてもらった。
- ・ まだまだ学校運営を地域や保護者とともに進めているところまでは認識されていないので、来年度はもっと積極的に情報発信をして認識を深めて周知していきたい。
- ・ まだまだ学校への出入りが思うようにできない中、学校の様子を知ることができる機会を大切に、学校のニーズに沿った話し合いができるように心掛けていきたいと思う。
- ・ メンバー間の関係づくり(信頼関係・よい雰囲気など)を基盤としながら、より良い学校運営協議会を目指し、今後の取り組みに意欲を高めていきたい。
- ・ コロナの終息が見通せない最中、子供たちにとっても、教職員の方々にとっても、協議会委員にとっても…etc、達成感や充実感など味わっていきけるよう熟議を深めていきたい。
- ・ 長期に渡るコロナ禍は、地域力の推進に大きなダメージを与え、なかなか地域力を活用していくことに困難も多かった。少しでも地域力につながる状況に回復することを期待したい。
- ・ 4年度のアンケートから来年度へ生かすとすると、
 - ① 「挨拶」の評価が児童と保護者、教員に大きなズレが見られる。この原因と対策を考えたい。来年度の評価のズレがどうなるか。。。
 - ② 児童アンケート(7・8)友だちがいる割合に対して、相談する数値がやや低い。毎日の生活の中では、様々な悩みをかかえるのが普通。悩みや弱音をはく勇気・友達や先生との関係ができる手立てを考えたい。

令和5年度 中瀬小学校 主な行事予定 (2/17現在)

< 1 学期 >

始業式	4月 6日 (木)	
入学式 (1年生と保護者のみ)	4月 7日 (金)	
引渡し訓練	4月21日 (金)	5時間目に引渡し訓練
家庭確認	4月25日 (火) ~ 4月28日 (金)	
教育相談 (全家庭対象)	5月 8日 (月) ~ 12日 (金)	
参観会	6月 2日 (金)	実施方法は検討中
5年生林間学校	6月15日 (木) ~ 16日 (金)	1泊2日
夏季教育相談 (希望家庭対象)	7月 3日 (月) ~ 7日 (金)	
終業式	7月21日 (金)	
部会水泳記録会	7月25日 (火)	北浜中プールで実施予定
30分間回泳	7月27日 (木)	トビオで実施予定

< 2 学期 >

始業式	8月31日 (木)	
参観会	9月20日 (水)	実施方法は検討中
部会陸上大会	10月11日 (水)	四ツ池運動公園で実施予定
市陸上大会	10月21日 (土)	四ツ池運動公園で実施予定
運動会 (午前開催)	10月28日 (土)	予備日29日 (日)
6年生修学旅行 (東京方面)	11月16日 (木)・17日 (金)	1泊2日
市音楽発表会 (4年生対象)	11月下旬	サーラ音楽ホールで実施
学習発表会	12月13日 (水) 14日 (木)	
		※13日は児童対象、14日は保護者対象
終業式	12月23日 (金)	

< 3 学期 >

始業式	1月 9日 (金)	
なかぜっ子走	1月30日 (火) ~ 2月 1日 (木)	学年団毎に実施
参観会	2月16日 (金)	実施方法は検討中
修了式	3月15日 (金)	
卒業式 (5年生参加予定)	3月18日 (月)	※状況では6年生と保護者のみ

※行事予定については、状況に応じて変更を余儀なくされる場合があります。とを御了承ください。新年度になったら改めて1年間の計画表は配付します。

令和5年度

中瀬小学校 教育基本構想（案）

「誰もが安心して精一杯学び合える学校」を目指して
こんな学校、こんな児童、こんな職員を目指して

学校教育目標

「友達を大切にし、
広い心で助け合う」

「なかぜっ子清掃」



「教科担任制」
（5年社会）



「中瀬学習（総合）」



「コミュニティ
スクール」



浜松市立中瀬小学校
校長 宮崎 秀樹

学校教育目標

友達を大切にし、広い心で助け合う

経営目標

望ましい生活態度と学習態度、かかわりを通して成長

スローガン

「強くあたたかい学校」
の充実・深化

- ・なかよく(自分も友達も大切にする力)
- ・かしくく(課題を見つけ解決する力)
- ・ぜんりよく(夢に向かって努力する力)

中瀬小コミ・スク
(学校運営協議会)

- ・人材バンク作成へ向けた取組

重点目標

「豊かな心」
自分らしさの発見・
かかわる力の育成

家庭との連携

- ・PTA活動を通じた家庭との連携(行事ボランティア等)
- ・学校運営協議会との連携

地域との連携

- ・中瀬地区自治会との連携
- ・地域関係機関(社会福祉課等)との連携
- ・地域福祉施設(浜北特等)との交流・連携
- ・中瀬協働センターとの連携

- ◎「きょうどう・じりつ」をキーワードとした特別活動の充実
- ◎異学年交流(なかぜっ子活動)の推進

幼保小中連携教育

- ・中学校・幼稚園・保育園・浜北特別支援学校との交流活動の充実
- ・浜北北部中学校区幼保小中合同研修会の推進
- ・教職員の資質向上に向けた教員交流研修の充実

キャリア教育の推進
「なかよく・かしくく・ぜんりよく」

「確かな学力」

望ましい学習態度の育成

- ◎教科担任制による授業改善
- ◎「話し合い活動」を核とした表現力の育成

「健やかな身体」

望ましい生活態度の育成

- ◎挨拶の励行・外遊びの奨励
- ◎健康な生活・食習慣の確立
- ◎「自分の命は自分で守る」自助意識の育成

「教職員研修の充実」「教育環境の整備」「働き方改革」

浜北北部中校区
めざす子供像

「明るい挨拶のできる子・
心身共にたくましく生きる子」



浜松市未来ビジョン 都市の将来像

市民協働で築く「未来へかがやく創造都市・浜松」

《教育理念》

「未来創造への人づくり」「市民協働による人づくり」

《浜松市教育推進大綱》

「市民協働による人づくり」
「子供の学びと育ちを支える環境づくり」
「創造性あみれるまちづくり」

令和5年度 浜松市立中瀬小学校 学校経営方針

1 はじめに

(1) 教育の責務

教育は、児童・生徒一人一人が人格の完成を目指し、個人として自立し、それぞれの個性を伸ばし、国家及び社会の生成者としての資質を育成するとともに、その可能性を開花させることが目的である。義務教育は、今日の生涯学習社会において、こうした基盤を培うことがその責務である。

義務教育を充実させるにあたって、教職員の資質向上や教育環境・条件の整備、教育内容の充実、教育成果の検証・改善は、将来の日本を担う人材を育成するために、総力を挙げて取り組まなければならない課題である。

(2) 教育の現状と課題

令和4年度においても、コロナウイルス感染症の影響は大きく、本校においても様々な活動に制限がかかっている。しかしその中においても、子供たちの充実感を高めるために工夫を凝らして教育実践している。行事の再検証・見直し、新しい学校生活の様式の定着、学習方法の工夫（ICT教育含む）等、大きな変化の中で学校教育を進めなければならない状況である。

この変化の中で、発達支援・問題行動(いじめ等)・不登校への対応に加え、保護者からの過剰な要求等も教育界全体の課題となっている。また、キャリア教育・カリキュラムマネジメント・コミュニティスクール等の推進も求められ、学校だけで解決できる内容を越えた状況となっている。今後も学校だけでなく家庭・地域と協働して、よりよい子供たちを育成することが大きな課題である。

(3) 令和に求められる育成すべき資質・能力

これからの時代は予測不能の時代と言われ、少子高齢化やグローバル化の進展、AIによる産業構造の変化等があり、現在ある職業が子供たちは選択できない社会になっていると言われる。「学力は、時代によって変わる」と言われるが、まさにこの認識が重要であり、社会状況と学力との関係は密接なものがある。しかし、どのような社会となっても、学校教育は子供の「自立性」「協働性」を高め、困難な時代を乗り越えることのできる資質・能力を育成しなければならない。

令和4年度においても教育界は様々な変化が起きているが、今後もさらにこの流れは継続していくと思われる。しかし、子供たちの協働性・道徳性等の育成は、学校教育の不易な部分であり、学習・特別活動などの学校教育において、流行や過度な情報に流されることなく、教育の本質を追い求める教職員として教育に臨みたい。

(4) 第3次浜松市教育計画

第3次浜松市教育計画(後期)で浜松市は、未来ビジョン後期方針として「キャリア教育を核とした教育の推進」を打ち出しており、本校においても、「㊦かよく(自分も友達も大切に作る力)」「㊧しこく(課題を見つけ解決する力)」「㊨んりよく(夢に向かって努力する力)」を育成するため、本年度の教育活動を進めている。

またそれに伴い、授業改善は必須であり、各教科の専門性の向上はもとより、教職員の資質向上は教育活動を支える核となる。

2 学校経営方針

「強くあたたかい学校(組織)」の充実・深化

本校は、「強く」「あたたかい」学校を目指して、様々な活動に取り組んできている。

令和5年度においても、教職員が児童と共に、「強く」「あたたかい」学校の充実・深化を目指し、一丸となって取り組んでいく。

○「強さ」とは…自主的・主体的であり、「知」「徳」「体」の目標に向けて推進力が高く、組織的に課題解決に向けて取り組んでいること。

○「あたたかさ」とは…児童と児童、児童と教職員、教職員と教職員の協働性が高く良好であり、互いが相手を必要とし、前向きなエネルギーに満ちている状態。

教職員においても、「強くあたたかい教職員団」を目指して、互いに協力・協働して教育活動を推進し、楽しくいきいきと活動していく。このことで教職員それぞれが、中瀬小学校の教育を担い、よりよい子供たちを育成していく。

(1) 学校教育目標

「友達を大切にし、広い心で助け合う」

令和4年度までと同様に、学校教育目標を「友達を大切にし、広い心で助け合う」とする。また子供像を、「しなやかで、やさしく、たくましい コスモスの花」とし、令和5年度においてもさらに地域に根ざした教育活動を進めていく。どのような困難なことがあっても「しなやかに」生きていくことのできる、「やさしく」「たくましい」主体的で協働性豊かな子供を育てていくことを目指し、この学校教育目標とする。

(2) 経営目標

◎「望ましい生活態度と学習態度を身に付け、かかわりを通して成長させます。」

学校評価・日頃の取組などから本校の課題として、「あいさつ」「発表・学習への意欲」「教師への相談」「いじめ・不登校への対応」「情報発信」が挙げられた。そこで、令和5年度のスローガンを「『強くあたたかい学校(組織)』の充実・深化」とし、教育活動の中で教師自らが児童との関係性をさらに高め、組織として一人一人の児童を育てていく。

「組織として一人一人の児童を育てる」ために、教科担任制をさらに充実・深化させる。一学級で多くの教員が授業することで、担任学級だけでなく学年・学年団の教員が、どの学級・どの児童に対しても適切に指導できる体制をつくる。このことで、児童にとっても担任ばかりでなく、どの教師にも安心して相談できる体制となる。また、1教員が担当する教科が少なくなり授業研究を充実させることができ、専門性が高まる中でよりよい授業・魅力ある授業へと授業改善していくことができる。

◎「中瀬小コミ・スク(学校運営協議会)の推進」

令和4年度よりコミュニティー・スクールを立ち上げ学校運営協議会を設置した。このことで地域人材を講師として招いたり、学習ボランティアとして来校いただいたりすることができている。今後も地域の方とのかかわりをさらに増やし、多くの人間関係の中で児童の育成を進めていく。

(3) 重点目標

ア 豊かな心「自分らしさの発見やかかわる力をさらに伸ばします。」

本校は、「なかぜっ子運動会・学習発表会等」の学校行事ばかりでなく、「なかぜっ子活動」（集団登校・なかぜっ子清掃・なかぜっ子遊び等）に取り組む子供たちの意識はとても高い。そこで、「きょうどう（協働・共同・協同）」「じりつ（自立・自律）」をキーワードとして、令和5年度においても特別活動・なかぜっ子活動の取組をさらに充実させ、本校の「不易な教育」として継続していく。このことで、「人間関係・社会形成能力（㊦かよく：自分も友達も大切に作る力）」「キャリアプランニング能力（㊧んりょく：夢に向かって努力する力）」をさらに伸ばし、人間性豊かな児童を育成する。

また、本校児童は総合的な学習の時間・生活科において、地域の歴史や文化・環境や福祉・経済等について学習を進めている。令和5年度においても、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）と連携し、地域の有識者を講師に招く等多くの地域の方と接する中で、人間関係能力の育成も図っていく。

イ 確かな学力「子供たちに望ましい学習態度を身に付けさせます。」

令和4年度より浜松市全体で「教科担任制」が実施されるようになった。本校においても各教科の専門性を高め充実した授業を実践する中で、子供たちに確かな学力を保障し「できた」「分かった」と実感できる授業を展開していく。

また、ICTを利用して「協働した学習」が進めているが、今後オンラインでの学習がスタンダードとなっていく社会状況である。そのためにICTを的確に利用できるスキルと共に、コミュニケーション能力の育成は必須となる。さらに表現力を磨き、コミュニケーション能力を高めることで、オンライン学習においても自分の考えを適切に伝えることができ、「課題対応能力（㊨しこく：課題を見つけ解決する力）」を育成できる。またコミュニケーション能力の育成は、キャリア教育における「人間関係・社会形成能力（㊦かよく：自分も友達も大切に作る力）」を伸ばすことにもつながると考える。

ウ 健やかな身体「子供たちに望ましい生活態度を身に付けさせます。」

令和4年度の学校評価においても、本校児童の「あいさつ」についての課題が挙げられた。地域での生活においても、適切に「あいさつ」ができるよう、児童会・委員会活動で取り組むとともに、教職員も子供のよきモデルとなり挨拶を励行していく。

また、休み時間や昼休みに運動場へ出てボール投げ・鬼ごっこ・縄跳びなどの活動（外遊び）をする児童が多い。学校行事（運動会・なかぜっ子走）・部活動（水泳・陸上・音楽）等を通して、自分のめあてに向かって挑戦し続ける力を伸ばすとともに、体力の維持増進・健康意識の向上に努める。

こころの健康や健康な生活習慣・食習慣などの健康教育を、養護教諭・発達支援コーディネーターが中心となってさらに推進していく。

今後もこれらの活動を通して「自己理解・自己管理能力」もさらに育成し、健康で安心・安全な学校生活を目指す。

(4) 教育を支える基盤(発達支援教育の充実・地域との連携・家庭との連携)

児童は頑張りが認められできたことを賞揚されると、自信をもち、やる気や意欲が湧く。この繰り返しを通して、児童は自己肯定感・自己有用感を高める。

これは、浜松の教育の基盤である「発達支援教育の理念」を念頭に置き、全教職員がこの指導観を共有することで、一人一人の児童が安心して学校生活を送ることができる。また教職員がチームとなり、全教育活動を通して児童の心を耕していく体制を構築する。(発達支援教育の充実)

地域自治会の活動や学校活動において、より交流がスムーズに進むよう協力体制をさらに充実させる。また、子供たちをさらに成長させるために、児童一人一人の悩みや保護者の不安や思いに寄り添い、常に連絡を密にする中で教育活動を進めていく。

(5) 中瀬小学校コミュニティ・スクール:学校運営協議会(中瀬小コミ・スク)

令和4年度より浜北北部中学校区3校(中瀬小・赤佐小・浜北北部中)で「コミュニティ・スクール」をスタートさせ、家庭・地域とともに「風通しのいい」中瀬小学校として学校教育を充実させてきた。コミュニティ・スクールは、地域の有識者・PTA会長・学校職員で学校運営協議会を組織し、CSコーディネーターを中心として地域の人材を発掘し始めている。本校が推進する地域の資源を活用した体験活動を支援する体制を構築しより充実した学習に結び付ける。(学習支援の実施、人材リストの作成、コミスクだよりの作成等)

(6) 浜北北部中学校区幼保小中合同研修会

令和4年度の小中合同研修会は浜北北部中学校が当番校として担当し、夏の合同研修会はオンラインで発達支援教育について、中瀬幼稚園・上島幼稚園・赤佐幼稚園・赤佐西幼稚園も参加して研修することができた。

浜北北部中学校区の幼・小・中が合同で研修することができ連携を深めることで、中瀬地区だけでなく赤佐地区、幼小中の関係性も高まり、12年間で地域の全教育機関が連携して「地域の子供たち」を育てる意識を高めていく。

(7) 教職員研修の充実

校内研修は、児童のよりよい育成を目指して、教職員の資質向上が目的である。教職員の幅広い知識や経験、教育観の醸成、よりよい授業を目指した授業改善など、教職員としての資質を様々な場面で向上させていく義務がある。令和4年度は校内研修のテーマを「伝え合いたいという思いを育てる対話的な授業づくり」として、教職員のさらなる資質向上を目指し推進している。令和5年は「教科部会」を中心として授業改善を充実・深化させる。学級会活動・委員会活動・縦割り活動等においても「話し合い活動」を充実させ、「協働する」「自立する」意識をさらに高めていく。そのため校内研修ばかりでなく、研究発表会、他校との交流研修等の校外の研修にも積極的に参加できる体制を整え、これにより、よりよい教育観・指導観・指導方法を身に付けていく。

(8)働き方改革の推進

浜松市では、平成30年度から会議・提出物の削減・統合・精選が推進され、学校閉庁日の設定・勤務記録用タブレットの導入等により、働き方改革を推進してきた。その結果、教職員がゆとりをもって教育活動に専念したり、子供を向きあう時間を確保したりできている。

令和4年度は「『強くあたたかい学校』のさらなる推進」をスローガンとして、「教職員の協働性を高め、働きがいがあり、互いが互いを認め合える組織」を意識して、日頃の教育活動に取り組んでいく。また、様々な削減・統合・精選は勿論のこと、業務改善の第1は「タイムマネジメントである」と考え、計画的に業務を遂行する意識を高めていく。